

山 村 留 学

三瓶ごだま学園

平成16年春から1年間の長期留学生を迎え、2年目の今年は16名の都会からの留学生が、センターと農家で生活しながら、地元の小・中学校に通っています。海や山での活動や、世界遺産登録が予定されている石見銀山などの史跡文化を活用した体験活動。そして都会では出来ない1年間を通じた農作業体験など、独自の活動内容で好評を博しています。子どもたちがそこで、見つけ、得たものは・・・



食べ物のありがたさ
私は大田市に来て初めて野菜を育てた。スパーに並んでいる一つ一つの食べ物に多かれ少なかれ人の苦勞が詰まっているのだと思うととてもありがたい気持ちになれる。それは、自分が実際にそうゆう苦勞をして初めてわかることだし、お肉にしても野菜にしても命があるということをお身に感じられたからだと思う。食事前の黙とうが最初は意味がわからなかったけど、最近では分かってきて、絶対に食べ物を残さないようにしようと思うようになった。魚も肉も野菜も本当にありがたう。

・・・2年目になってやっと心に余裕もでき、こんなにいろんな人たちに支えられていると感じ始めました。自分は分からない人でも自分の名前を覚えていて下さったり、挨拶をしただけしかけて下さったりと、私たちは色々なところで見守られているのだなあと感じました。
「心の収穫作文集」より

「山村留学」とは、親元から離れて農山漁村へ転入し、農家や寮などで生活しながら地域の小中学校へ通学することを行い、現在全国で約150団体が、様々な形で実施しています。
大田市の山村留学は、豊かな自然や文化を活用した様々な体験と多くの人との交流を通じて、子どもたちの生きる力を育むことを目的に行っています。現在は、千葉県や東京都など1都1府5県からの小学3年生から中学3年生までの16人が生活しており、平成18年度は18人の留学生を予定しています。

留学生は、期間中、センターと受入農家で交互に生活しながら、学校へ通学します。センターでは基本的な生活習慣や集団生活のルールを学び、様々な活動を行います。また、農家では、家庭的な雰囲気の中、心のよりどころを得ることが出来ます。



センターでの生活は、朝6時起床後ラジオ体操、朝のあいさつで1日が始まり、食事の配膳や掃除、洗濯も当番を決めて行います。また週末には、田畑の農作業や椎茸の植菌、漬物・味噌の仕込み、炭焼など、四季を通じて生産体験活動を行います。時には作物が枯れたり、害虫の被害にあつたりという失敗はありますが、こうした本物の体験を通じて、「食べ物」や「自然の恵」のありがたさを実感して欲しいと考えています。

さらに、自然を理解し、工夫する心を育てるため、キャンプや登山、海水浴、釣り、スキーなど、四季に応じた活動を行っています。例えば魚釣りでは仕掛けの作り方から、獲物の捌き方、調理の仕方まで指導します。また秋には、1人で1泊し、3食を作る『ソロキャンプ』も行います。こうした体験の一つ一つが子どもたちの自信につながっています。

また、留学生を受け入れる側の子どもたちや地域の人々にとっても、日々の生活や、一緒に活動を行うことで、自分の住んでいる地域を見直し、ふるさとを再発見するという効果も生まれています。

秋の「収穫祭」では、一人ひとりの研究課題などをたくさんの方々の目の前で披露しました。

- ☆個人研究
- ・ ツリーハウスを作る
 - ・ 縄文の竪穴式住居を作る
 - ・ 食べる（蛇、蛙、鶏、イナゴなど）
 - ・ 草木染でパッチワーク など
- ☆全体発表

- ・ 劇（ヤマタノオロチ）
- ・ 踊り（下ジョウウ掬い・古代神）
- ・ 太鼓



平成18年度夏休み自然体験(予定)

センターでは、この夏、次のような活動を予定しています。参加者の募集は、5月上旬から行います。パンフレットが出来次第お送りさせていただきます。是非ともご親戚、ご友人へご紹介ください。お問い合わせは、センターまで。

- 初級活動（4泊5日） 8月上旬、下旬の2回
 - 中級活動（5泊6日） 8月中旬、下旬の2回
 - 2週間の活動（13泊14日） 8月上旬～中旬
- ※定員は、いずれも30名です。

山村留学センター 〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694番地
TEL 0854-86-0700 FAX 0854-86-0701

URL <http://www.iwamigin.jp/ohda/sanryu/> E-mail o-sanryu@iwamigin.jp

